

令和3年10月8日

地域医療支援病院の承認にあたっての考え方

東京女子医科大学東医療センター

病院長 内 潟 安 子

これまでの取り組み

1. 地域医療への貢献

- 昭和5年に無料診療事業から始まり、至誠と愛を理念に地域住民のための医療を提供し続けて貢献してきました。
- 当院の機能は地域医療を担っている他に大学附属病院として高度医療の提供、救急告示病院、救命救急センター、地域周産期母子医療センター、災害拠点中核病院、地域がん診療病院の機能を有し、区東北部二次保健医療圏（荒川・足立・葛飾区）の中核病院として活動しています。
- 区東北部の東京都糖尿病医療連携推進事業、東京都脳卒中医療連携推進事業、東京都周産期医療ネットワークグループ事業の事務局を担当し、医療連携の推進を行っています。
- 地域医療機関との連携を推進するため地域医療機関から連携ドクター（登録:157施設）として入院患者の訪問、各種研究会、勉強会などへ参加や、当院の施設共同利用を行っています。
- 連携担当医制度を設けて、地域の医療機関からの問い合わせを該当する診療科に円滑に取り次ぐ方法を行っています。
- 発熱コロナ外来を設置し、保健所及び地域医療機関より依頼のPCR検査を実施しています。
- コロナ副反応外来を設置し、地域医療機関からの副反応相談、及び受診依頼の対応を行っています。

2. 紹介患者中心の医療提供

- 地域医療支援としての病院の役割を明確にするため、平成18年に初診時の選定療養費を開始しました。併せて患者に対してかかりつけ医への受診を啓蒙し、逆紹介を推進しています。

（令和2年度 紹介率77%、逆紹介率81.9%）

- 定期的にニュースレターを発行し、当院の診療機能や医師を紹介しています。
- 地区医師会との定期的な意見交換会を開催しています。
- 地域連携室・医療社会相談室を統合して、地域連携強化を行っています。

3. 救急医療の提供

- 前方連携として、東京消防庁を始め救命救急士の各種病院実習を行っています。
- 3次救命救急センターを設置し、救急診療体制を強化しています。
- 2次救急対応を強化するための活動（Emergency Room、略称：ER）を実施しています。
- 救急診療部運営委員会を設置し、受入不能事例などを含めた救急体制について協議を行い、救急応需に努めています。
- 夜間における救急診療を平成14年10月より地域医療機関の医師が当院に出向き診療を行う取り組みをしています。

4. 地域医療従事者に対する研修

- 地域の医療施設との連携強化を図るための研修会、症例検討会等を計画的に開催しています。
- 院内感染対策の人材育成と院内感染対策の取り組みを充実したものとするため、地域の医療機関と感染対策の相互ラウンドを平成24年より開始しています。現在、4医療機関（荒川区 木村病院、岡田病院、足立区 いずみ記念病院、水野病院）の参加の下で院内感染対策の連携を図っています。
- 地域医療の貢献と周辺地域の医療連携強化のため、平成15年より城東地区医療連携フォーラムを年2回開催しています。現在、5区6医師会（荒川区医師会、足立区医師会、葛飾区医師会、下谷医師会、浅草医師会、北区医師会）の参加の下で運営しています。フォーラムのテーマは当院と医師会持ち回りで地域の医療ニーズを検討し、テーマとして取り入れています。
- 地域薬剤師会会員と薬薬連携を図るため区東北部薬剤地域連携包括協議会を設置し、情報交換や勉強会を開催しています。
- 地域の医療従事者への研修会に医師・その他の医療従事者を講師として派遣しています。

今後の取り組み

- 今までの取り組みを更に充実・強化して地域医療に貢献します。
- 地域医療機関に対し、病床・医療機器の共同利用を積極的に展開し、地域全体の医療水準の向上に貢献します。
- 地域の医療機関、福祉施設、自治体と協働して住民の健康の問題解決のための活動を推進します。
- 地域医療機関との機能分担・連携（病病連携、病診連携・介護連携）を推進し、高度急性期・急性期から回復期・在宅等への円滑な移行や適切かつ良質な医療提供に貢献します。
- 足立区医師会及び足立区と連携し、人材養成と地域医療の向上を目的とした医療連携協議会を設置します。

以上